

令和3年度(2021年度)公共事業再評価調査

Table with 2 columns: 基準年月日 (令和3年8月1日), 作成責任者 (農政部長 磯崎 光世)

Table with 4 columns: 調査番号 (06-03), 所管部 (農政部), 作成責任者 (農政部長 磯崎 光世), 担当係 (水田整備係(内) 27-568)

I 基本事項(基準日時点)

Table with 4 columns: 事業種別 (道営土地改良事業費(農地整備事業(経営体育成型))), 地区名 (名目, 市町村名), 事業費 (4,160百万円, 負担割合)

Table with 4 columns: 事業費 (4,160百万円), 負担割合 (国 55.0%, 道 32.5%, 市町村, その他 12.5%)

Table with 2 columns: 事業概要 (房別川支流目名川流域の盆地である本地区において、良質米の安定生産を行うため、安定した用水供給や営農作業及び維持管理の軽減に対応できる農業用水施設の整備を行う。), 事業目的・目標 (●良質米の安定生産および転作作物の生産性向上を図る。●農作業効率の向上および水管理の合理化により労働時間の削減を図る。●換地により農地や農業施設の再編整理を図る。●担い手への農地集積を図る。●事業実施により安全・安心な食の生産をささえる。)

Table with 2 columns: 事業費内訳 (受益面積 283ha → 276ha, 受益戸数 30戸 → 25戸, 〇用水路 6,539m → 7,713m, 〇排水路 2,515m → 2,430m, 〇区画整理 2,36ha → 2,24ha, 〇暗渠排水 7ha, 〇客土 8ha, 〇測量設計費 356, 〇用地補償費 電柱移設 6本-15本 ほか, 〇換地費), 計 (3,040, 4,160)

Table with 2 columns: 総合計画での位置付け (総合計画: 中項目 農林水産業の持続的な成長, 総合計画: 小項目 潜在力のフル発揮で地域の経済・社会を支える農業・農村づくり), 実施名 (農業農村整備の推進), 実施目標 (地域の個性や創造力を活かした農業・農村の持続的な発展に向けて「いのちの顔「食」の生産をささえる」「多様な担い手と地域をささえる」「豊かな農村環境をささえる」の3つを整備の基本方針とし、地域の実情に即した生産基盤等の計画的な整備を進める。)

II 公共事業再評価経過

Table with 10 columns: 事業採択 (事業採択, 着手, 評価年度, 完了予定), 経過年数 (4), 総事業費(a) (3,040, 4,160), 道負担額 (988, 1,352), 当該年度事業費 (534), 累計事業費(b) (1,184), 進捗率(b)/(a) (28%)

Table with 1 column: 変更理由・内容 (1)区画整理について、調査の結果、工種内暗渠排水が増となったことによる事業費の増 (2)区画整理について、当初計画よりも大区画化する計画としたことによる事業費の増 (3)区画整理について、客土材運搬路の造成による事業費の増 (4)用水路工について、地質調査で確認された地下水や巨礫への対応に伴う事業費の増 (5)用水路工について、現地調査の結果、整備延長が増となったことによる事業量、事業費の増 (6)資材及び労務単価、消費税率の上昇に伴う事業費の増 (7)積算基準の改正による事業費の増

III 事業採択前の状況

Table with 4 columns: 1. 事業採択に至る経過と背景 (本地区は、昭和50年代に道営ほ場整備事業で一部ほ場を整備してきたが、大半のほ場は事業による整備が行われておらず小区画・不整形で効率的な機械作業に支障を来しているほか、排水性の悪いほ場では、作物の生育不良や作業効率の低下が生じていることから暗渠排水や客土、ほ場の区画拡大を進める必要がある。また、一部の基幹用水路施設(水路橋)は設置後約40年が経過し、老朽化による破損、水漏れが発生し維持管理にも苦慮している状況にあり、早急な整備が望まれていることから、平成26年に閣議より事業採択に向けた要望が出された。), 2. 事業検討の経緯(住民への把握等) (● H26年(2014年)5月 閣議より後志総合振興局に調査計画を要望 ● H27年(2015年)4月 総合振興局で地域の整備要望を踏まえ調査を開始 ● H28年(2016年)3月 土地改良法に基づき事業申請 ● H29年(2017年)4月 事業採択), 3. 事業効果及ぼす地域・対象 (● 閣議より 受益面積283ha、受益戸数30戸), 4. 関連する事業 (Table with 5 columns: 事業名, 事業主体, 事業期間, 事業費(百万円), 事業内容)

IV 事業の実施状況

Table with 15 columns: (1) 事業実績及び今後の計画 (施工(工種)区分, 工事内容, H27, H28, H29, H30, R1, R2, R3, R4, R5, R6, R7, 進捗状況, 事業費(百万円)), (2) 進捗状況 (本地区は、H30年(2018年)から着工し、用水路670m、排水路360m、区画整理37haの整備が完了している。事業はおおむね予定どおり進捗しており、今後の実施にあたっては特に大きな支障となるものはない。), a (a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。 c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。)

Table with 4 columns: 経済効果の内訳(百万円), 費用の内訳(百万円), B/C (1.11), 備考 (・「土地改良事業の費用対効果分析マニュアル」(農林水産省H30改正)に基づき算出 ・経済効果の合計と費用の合計は、「工期+40年」の累計で算出(R2年度に現在価値化している。 ・費用の合計は現在価値化しているため事業費と異なる。 ・農業用排水施設(区画整理内排水路含む)と接続する上位排水施設等にかかる費用を「関連施設」として計上している。 ・維持管理費削減効果は、現施設の維持管理費に対して、再整備した場合の維持管理費の増減及び事業を実施せず現施設がなくなった場合の維持管理費の増減の合計により、マイナスとなる。 ・算定年度はR2年度(2020年度)

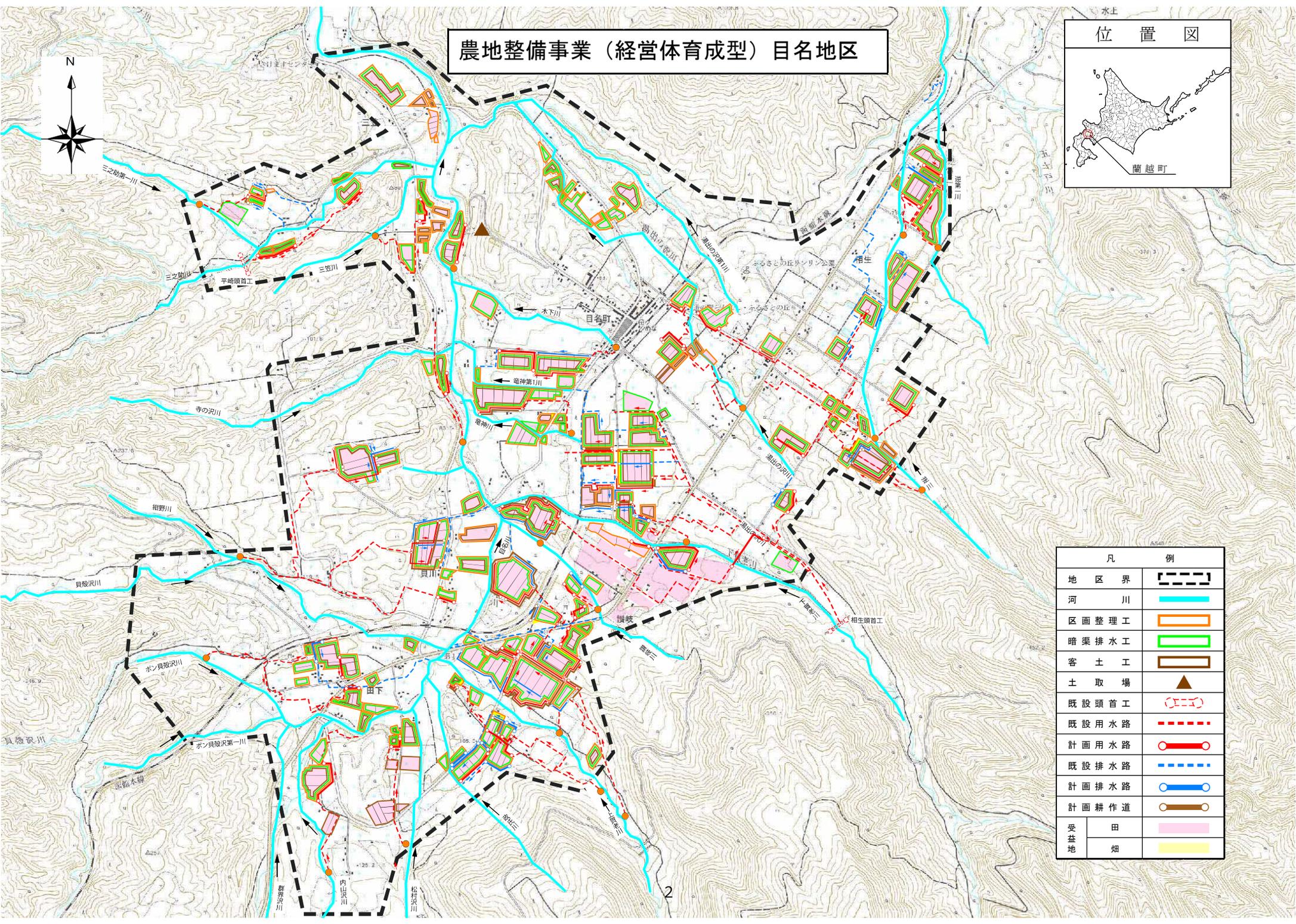
Table with 3 columns: 取組の項目 (発注時期の最適化), 取組の内容 (営農調整等農家協力のもと早期発注の検討を行い、冬期施工に係る経費の抑制を図る), 総減額(百万円) (25)

V 評価							
1. 必要性	●地域農業を取り巻く現状と課題に変化はなく、これらに対応するための農業基盤整備の必要性に変化はないため、早期事業完了を目指す必要がある。						
	<table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。</td> </tr> </table>	a	a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。				
a	a：事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b：着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c：着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。						
2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題 ●本地区は、蘭越町が策定した「田園環境整備マスタープラン」において環境配慮区域に位置づけられている。 ●本地区の排水流末が接続している河川に生息する魚類や動植物等の生態系及び景観に配慮した環境保全対策について、後志総合振興局にて開催する環境情報協議会へ提案し意見を求めている。 ※直近の評価以降の状況変化はない。						
	(2) 事業推進に対する住民の動向 ●事業着手以降毎年、目名地区促進期成会を通して整備促進の要望が行われている。						
	(3) その他の課題 ●特になし						
3. 事業達成の見込み	今後の事業実施に当たって特に大きな支障や課題はないが、予定年度での完了に向けて今後は要望とおりの予算を配当する必要がある。						
	<table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b：課題はあるものの達成は可能である。 c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。</td> </tr> </table>	a	a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b：課題はあるものの達成は可能である。 c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。				
a	a：現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b：課題はあるものの達成は可能である。 c：大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。						
4. 処方針	事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和7年度（2025年度）の完成を目指して事業を継続する。						
	<table border="1"> <tr> <td>a</td> <td>a：継続 b：終了 c：休止 d：中止</td> </tr> </table>	a	a：継続 b：終了 c：休止 d：中止				
	a	a：継続 b：終了 c：休止 d：中止					
<table border="1"> <tr> <td>事業期間変更の有無</td> <td>無</td> <td>事業費変更の有無</td> <td>有</td> <td>事業内容変更の有無</td> <td>目的・規模等に係る変更 無</td> <td>左記以外の変更 有</td> </tr> </table>	事業期間変更の有無	無	事業費変更の有無	有	事業内容変更の有無	目的・規模等に係る変更 無	左記以外の変更 有
事業期間変更の有無	無	事業費変更の有無	有	事業内容変更の有無	目的・規模等に係る変更 無	左記以外の変更 有	
VI 備考							
1. 評価履歴	事前評価：平成27年度（2015年度）評価 評価結果： 要望を行うことは妥当 B/C=1.28 再評価： 該当なし						
2. その他の取組事項							

補足資料

VII 事業計画変更							（単位：百万円）					
事業経過年	再評価	事業採択	着手	変更年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
								事前評価又は当初	H29 (2017)	H29 (2017)	H29 (2017)	H37 (2025)
変更①		H29 (2017)	H29 (2017)	H29 (2017)	H37 (2025)		3,170	1,030				
変更②				R2 (2020)	R7 (2025)		4,160	1,352				
変更③	1回目			R3 (2021)	R7 (2025)		4,160	1,352	534	1,184	28%	
変更④												
変更⑤												
変更⑥												
変更⑦												
変更⑧												
変更⑨												
変更⑩						4						
変更理由・内容	<p>変更①：事前評価から採択申請までに生じた変更 ・区画整理について、大区画化の要望に伴い暗渠排水が必要となったことによる事業費の増</p> <p>変更②：事業費の変更 ・区画整理について、地元要望の変化により当初計画よりも大区画化する計画としたことによる事業費の増 ・区画整理について、客土材運搬路の造成に伴う事業費の増 ・用水路について、地質調査で確認された地下水や巨礫への対応に伴う事業費の増 ・用水路について、現地調査の結果、起終点延長精査により整備延長が増となったことによる事業量・事業費の増 ・資材及び労務単価、消費税率の上昇に伴う事業費の増 ・積算基準の改正による事業費の増</p>											

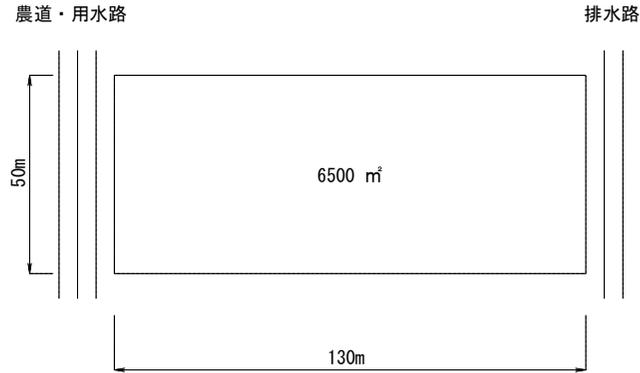
農地整備事業（経営体育成型）目名地区



凡		例
地区界		┌───┐ └───┘
河川		┌───┐ └───┘
区画整理工		┌───┐ └───┘
暗渠排水工		┌───┐ └───┘
客土工		┌───┐ └───┘
土取場		▲
既設頭首工		(---)
既設用水路		---
計画用水路		○—○
既設排水路		---
計画排水路		○—○
計画耕作道		○—○
受益地	田	■
	畑	■

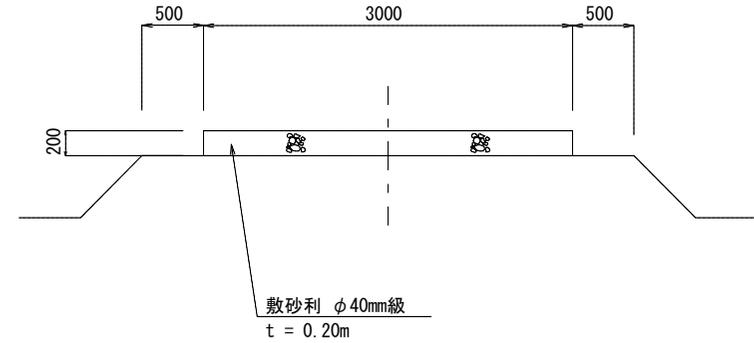
標準構造図

標準区画割図 (田)



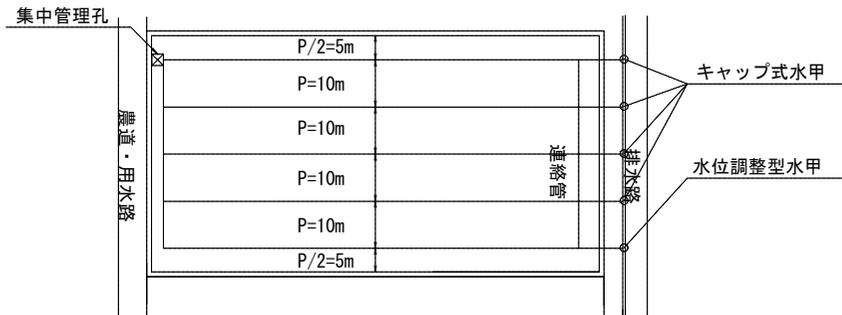
耕作道

(単位: mm)

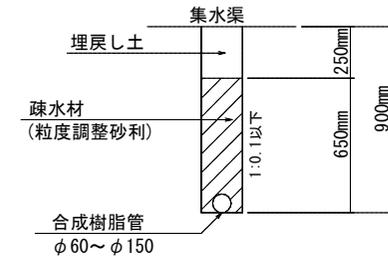
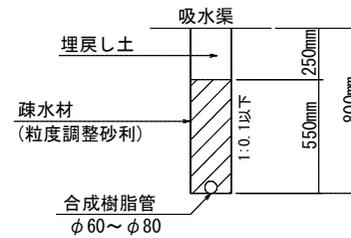


暗渠排水工

標準配線図



断面図

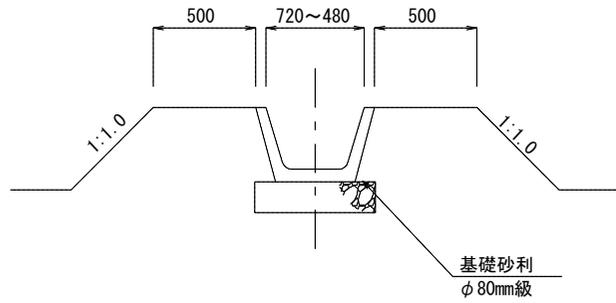


標準構造図

用水路工

(単位：mm)

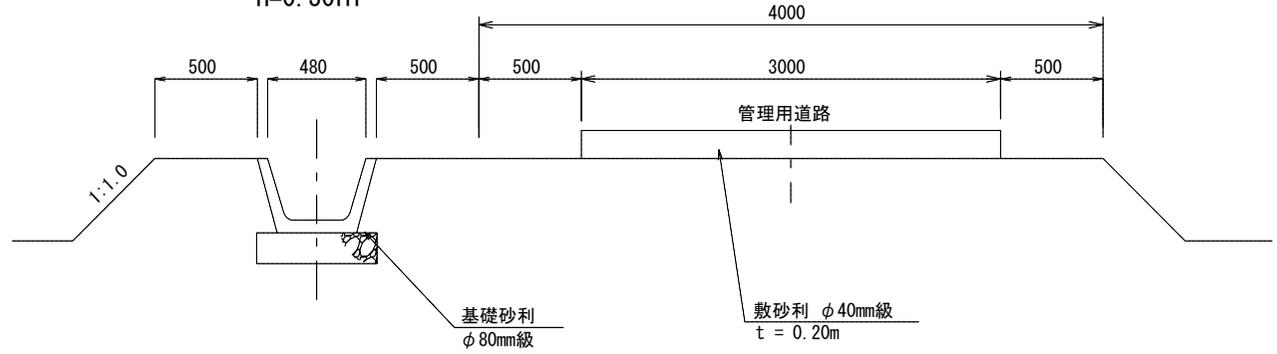
B=0.30~0.45m
H=0.30~0.45m



用水路工 (管理用道路あり)

(単位：mm)

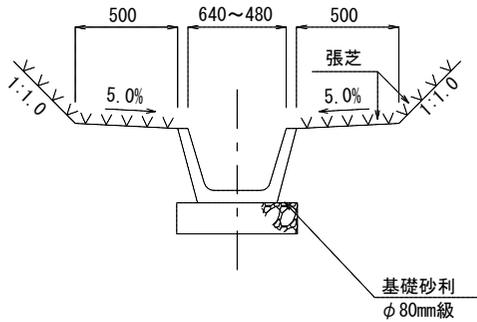
B=0.30m
H=0.30m



排水路工

(単位：mm)

B=0.30~0.40m
H=0.30~0.40m



排水路工 (管理用道路あり)

(単位：mm)

B=0.30m
H=0.30m

